

ナフサ、今年の高値更新 年初比1.5倍 原油高や供給減で

石油化学製品の基礎原料となるナフサ（粗製ガソリン）の国際価格が一段と上昇し、今年の高値を更新した。原油高に加え、日用品向けを中心に需要が底堅い。8月下旬に米国を襲ったハリケーンの影響で供給が一時的に減ったこともあり、需給が引き締まっている。合成樹脂の値上がり要因になる。

指標となるアジア地区のスポット（随時契約）価格は27日、1トン727ドル前後。先週末に比べ19ドル（2.7%）高い。それまで年内の最高値だった7月の価格を上回っている。年初の1.5倍になり、2018年10月上旬（746ドル前後）以来の水準に迫る。

値上がりは原油高だけでなく、ナフサ自体の需給の引き締まりが大きい。ナフサと原油価格の値差（スプレッド）は年初以降、ほぼ一貫して拡大する。先週末時点で約122ドルと年初の水準（約101ドル）を2割上回る。原油に比べ品薄感が強いことを示す。

8月に米メキシコ湾で発生したハリケーンで、被災した製油所の稼働が止まり生産が滞った。それに伴い、アジアのスポット市場での取引量の数%程度を占める米国からの供給が減り、価格が上がる一因となった。

合成樹脂などナフサ由来の石油化学製品の需要は底堅い。石油化学工業協会によると、低密度ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンといった汎用合成樹脂の8月の国内出荷量は前年を上回る。

主要な仕向け先である自動車向けは、減産の影響が一定程度生じるとみられる。一方で「長引く巣ごもり消費で、包装や日用品向けなどの出荷は落ちていない」（大手樹脂メーカー）。在宅時間が長くなり、家庭で消費する食品・食材向けの包装パッケージや、室内の整理収納用の雑貨などの販売が堅調なためだ。

世界的に液化石油ガス（LPG）が高値だ。欧州では相対的に割安なナフサに燃料向けなどの需要が集まり、スポット価格を押し上げた。

ナフサ高は合成樹脂の価格上昇につながりそうだ。ナフサのスポット価格は、国産ナフサ価格の先行指標となる。現在のスポット価格が続くと、10～12月期の国産品は1キロリットル5万6千円前後になる計算だ。

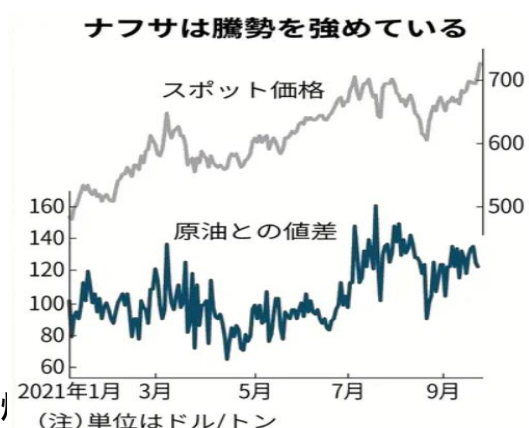
複数の石化メーカーは、国産ナフサが5万3千円前後との前提で製品の樹脂価格を設定しているもよう。ナフサ高は採算の悪化につながる。

既にポリスチレンはDICなどメーカー3社が10月1日の出荷・納入分から5%程度の値上げを表明している。こうした動きが今後、広がる可能性がある。

合成樹脂は年初から値上がりが続く。主要品種の市中価格は、低密度ポリエチレンが1キログラム240～270円程度、ポリプロピレンが同240～280円程度。

いずれも年初に比べ2割弱高くなった。

包装フィルムなどは値上がりした一方、それを使ったパッケージなど小売市場に近い加工品の転嫁値上げは進んでいないもようだ。追加値上げには、需要家の抵抗が強くなりそうだ。





東京商品取引所が運営する石油製品スポット（業者間転売）市場が廃れている。1～8月の取引件数は前年同期比9割以上少ない。新型コロナウイルスのまん延で移動需要が減ったことだけが理由ではない。根底には石油元売り再編で安値に流通する石油製品が大幅に減り、元売り系列外の給油所が製品を仕入れにくくなったことがある。給油所と安価な製品の減少は消費者には痛手だ。

「正直、最近では取引を確認すらしていなかった」。かつて東商取で石油製品を売買していた商社の担当者は話した。

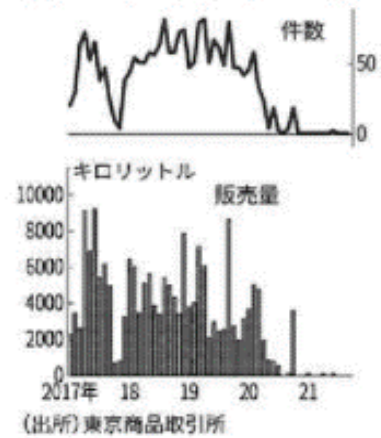
東商取のスポット取引開始は2017年。商社や仲介業者を介した相対取引が中心で価格形成過

激安ガソリン市場 廃れる

程が不透明との不満が多かった市場だけに、公設会社の東商取による運営への期待は大きかった。実際、元売りや商社などが売買し、「激安」が売りの独立系給油所なども仕入れの一端に利用。17年6月には9240キロリットルを記録し、19年半年はまでは比較的活発

に取引された。価格指標としての意味も含め、東商取のスポット市場での存在感は高かった。だが20年春以降、取引は急速に細った。21年1～8月の取引件数はわずかに4件、40キロと石油製品の月間販売量の1%にとどまる商社や給油所なども増えた」（商社）

石油スポット取引は低迷が続く



業者間転売件数、1～8月9割減

別のスポット市場として、石油情報サービスのリム情報開発（東京・中央）が運営するシェイオイルエクスチェンジ（JOX）もあるが、同様に低迷しているもようだ。市場縮小の主な原因は、元売りがENEOSホールディングス（HD）、出光興産、コスモエネルギーHDの3強に集約されたことにある。グループでの設備集約と製品融通で余剰品の発生が減少。元売りのとの資本系列などの形で業界の寡占化が進み、スポット市場での調達需要が減った。元売りと良好な関係を築こうとする商社や給油所など

元売り再編影響、流通細る

流通再編もスポット市場の価格競争が起きる場には逆風だ。商社にガソリンなどを保管する油槽所のスペースを貸していたジャパンオイルネットワーク（JONET、東京・千代田）は株主構成が変わり20年度までにほぼ出光専用となった。月下旬、大手が家族経営「自社でタンクを持たない」との小規模な給油所の合併を差し止めるための追加法を検討すると表明した。バイデン米政権が大手の寡占化によるガソリン価格高騰対策に乗り出したとの見方もある。元売り再編は、脱炭素時代における中期的な需314件と5年前から14要減に向けた余剰コスト・5%減少。給油所の削減の意図がある。また、少ベース（10・3%）よりスポット市場の縮小は、消費需要が減少する中、ガソリンや灯油を安く買う機会が減るも減れば元売りの影響力が相対的に強まる。給油

所間の価格競争が起きる場には逆風だ。商社にガソリンなどを保管する油槽所のスペースを貸していたジャパンオイルネットワーク（JONET、東京・千代田）は株主構成が変わり20年度までにほぼ出光専用となった。月下旬、大手が家族経営「自社でタンクを持たない」との小規模な給油所の合併を差し止めるための追加法を検討すると表明した。バイデン米政権が大手の寡占化によるガソリン価格高騰対策に乗り出したとの見方もある。元売り再編は、脱炭素時代における中期的な需314件と5年前から14要減に向けた余剰コスト・5%減少。給油所の削減の意図がある。また、少ベース（10・3%）よりスポット市場の縮小は、消費需要が減少する中、ガソリンや灯油を安く買う機会が減るも減れば元売りの影響力が相対的に強まる。給油

（堀尾宗正）



ウメモト インフォメーション



2021年9月29日

担当 坂田

凸版印刷、包材向けのハイバリア紙を開発 食品・トイレタリー製品など向けに

凸版印刷（東京都文京区）は9月17日、高い水蒸気バリア性や耐屈曲性を持ち、さまざまな内容物と包材形状に対応できるバリア紙「GL-X-P」を開発したと発表した。国内・国外の食品メーカーやトイレタリーメーカーを始めとした幅広い業界に向け、2021年9月下旬からサンプル出荷を開始。2022年春から量産化し本格的な販売を開始する。

同製品は、高い水蒸気バリア性を有することで、湿度による内容物の変質を防ぐとともに、優れた耐屈曲性を持つため幅広い包材形状に対応できるという。これにより、さまざまな粉末・固体製品（インスタントコーヒー、粉末スープ、チョコレートなどの食品、化粧品やトイレタリー製品など）のパッケージへ展開が見込まれるとしている。

紙を使用した従来包材からの置換えにより、鮮度保持にともなう消費期限の延長が実現できるためフードロス削減にも貢献する。紙素材とヒートシール性を有するコート層のみで構成されており、同社試算によると、プラスチックフィルムを使用した従来品と比較して、CO2排出量を最大約35%削減できるという。同社は、今後も新たな包材向けバリア紙の開発を継続しラインアップを強化し、同製品を含む包材向けバリア紙で、2025年に関連受注を含め約100億円の売上を目指す構えだ。



今回開発したバリア紙「GL-X-P」の使用イメージ（出所：凸版印刷）



3D印刷で義足 インド市場参入

義足の製造販売を手掛けるインスタリム（東京・千代田）は2022年4月をメドに、インド市場へ参入する。同社は3Dプリンターや人工知能（AI）を活用し、価格を抑えた義足を製造する。糖尿病の影響で脚を切断する貧困層が多い新興国に提供し、現在はフィリピンで販売している。インドでは21年度内に現地法人を立ち上げる計画で、ベンチャーキャピタル（VC）のディープロアなど5社から2億4000万円を調達した。



ウメモト インフォメーション



2021年9月29日

担当 坂田

化学製品値上げ

塩酸を6円以上

旭化成

旭化成は、10月18日出荷分から塩酸を値上げする。改定幅は1キログラム当たり6円以上。ユートイリティーや物流、製造・貯蔵設備の維持・更新などの費用が増大するなか、徹底した合理化・効率化に取り組んできたが、自助努力で吸収できる範囲を超える状況となり、安定供給を継続するには価格改定が不可避と判断した。

乾式シリカなど

トクヤマ

トクヤマは、10月1日出荷分から乾式シリカ「レオシル」(親水品・疎水品)および「エクセリカ」、四塩化珪素を値上げする。改定幅は現行価格比30%以上。原料の急騰による採算性の悪化を自助努力のみで解消することは困難と判断した。

酢酸を40円以上

KHネオケム

KHネオケムは、酢酸(低鉄分)を10月1日納入分から値上げする。上げ幅は、1キログラム当たり40円以上。酢酸誘導品の需要が電材向けを中心に旺盛で供給がタイトな状況下、酢酸として安定供給を維持確保するためにも採算是正に向けた価格改定が必要と判断した。

リン酸塩類改定

米山化学工業

米山化学工業は、10月1日出荷分からリン酸塩類の価格改定を実施する。主な製品と値上げ幅はリン酸二アンモニウムが1キログラム当たり78円以上、リン酸三アンモニウムが72円以上。このほか、リン酸ナトリウム、リン酸カリウムなどのリン酸塩類および縮合リン酸塩類の価格改定も行う。

主原料であるリン酸が価格改定により大幅に値上がりしているほか、ア

UVインキ改定

東洋インキ

東洋インキは、11月1日出荷分から紫外線(UV)硬化型インキ製品を値上げする。上げ幅は、1キログラム当たり100〜170円。中間色や調色インキ、特殊製品では一部上げ幅が異なる場合があるとする。顔料・モノマーなど主原料の価格高騰に加えて物流コストなども上昇。自助努力での吸収は困難と判断した。

OPS 12円以上

サンディック

サンディックは、10月20日納入分から2軸延伸ポリスチレンシート(OPS)「サンディックシート」を値上げする。改定幅は1キログラム当たり12円以上。主原料のポリスチレンは、ナフサ・ベンゼンの高騰にともなう値上げが打ち出されている。原料コストの上昇分を自助努力で吸収するのは困難な状況にあり、価格改定を決めた。

シール製品など

NOK

NOKは、10月1日受注分からシール製品などを値上げする。対象はオイルシール、Oリング、パッキンなどのシール製品をはじめとする国内代